

令和8年5月

魚津市定例記者会見

日時：令和8年4月30日(木) 午後1時30分～午後2時00分

場所：市役所 第1会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞社、北陸中日新聞、朝日新聞社、NICE TV、ラジオミュージー

市当局出席者：市長、企画広報室長



1 市長からの発表事項

(1) 市民との意見交換会（都市計画課、総務課）

市民説明会・意見交換会の開催のご案内です。同じ内容で2日間開催します。多くの市民の皆様にご参加いただき、ご意見をいただきたい。①富山地方鉄道本線のあり方については、令和7年度に本線沿線3市1町が実施した調査の結果をしっかりと説明した上で、3つのパターンに絞り込んで経費、影響や課題について知っていただき、忌憚のないご意見をいただきたい。②公共料金の見直しについては、令和元年度の見直しから5年以上経過し、見直しの検討状況を説明します。

テーマ ①富山地方鉄道本線のあり方

②公共施設料金の見直し（案）

日時・会場 令和8年5月11日（月）19:00～ ありそドーム研修室

令和8年5月14日（木）19:00～ 新川文化ホール201会議室

※以下資料に基づき説明。

(2) 第14回よっしゃ来い!!CHOUROKUまつり（商工観光課）

「よっしゃ来い!!CHOUROKUまつり」の開催のご案内です。同時開催イベント「UOZU BEER PARK」、「TOYAMEKI MARCHE」も開催されます。

・本祭り 令和8年5月17日（日）9:30～16:00 魚津駅前通り

・早朝清掃 令和8年5月18日（月）6:00～7:00 会場周辺

※以下資料に基づき説明。

(3) 高校生対象合同企業・業界説明会（商工観光課）

高校3年生を対象とし、市と株式会社ライセンスアカデミーの共催により開催します。富山県内の高校が対象で、主に新川地域の高校が参加します。去年は、約150名の生徒の参加がありました。出展事業者は、去年は38社、うち市内に本社がある企業は8社でした。市内企業のPR、採用の促進の機会として活用をしていただければと考えております。また、進学希望者を対象とした大学や専門学校が出展する学校説明会も同時開催します。

※以下資料に基づき説明

(4) 水族館×漁協×農林水産課が新プロジェクト

～魅る、知る、食べる！魚津ならではの体験型プログラム～（魚津水族館）

水族館と魚津漁協、そして農林水産課がジョイントした新しいプロジェクトを進めています。毎月魚津で、水揚げされる魚1つをテーマに選んで、学ぶことと、食べることを融合させた体験型企画を行っています。月替わりで水族館と漁協考案メニューを魚津丸キッチン（水族館横）で数量限定特別メニューとして提供するとともに、第2日曜日に「おさかなトーク」を開催します。5月はベニズワイガニです。ぜひ多くの方に体験いただきたいと存じます。

※以下資料に基づき説明

(5) 魚津水族館の入館者数および入館料収入の増加について（魚津水族館）

現在の3代目の水族館について、令和7年度の入館者数と入館料収入の状況のご報告になります。令和7年度の入館者数は、平成10年度以降で最多の18万9,928人を記録しました。同じく入館料収入も1億1,664万2千円と平成10年度以降最も多くなっております。

※以下資料に基づき説明

2 質疑応答の内容

○富山地方鉄道鉄道線のあり方について

《記者からの質問》

令和8年3月の第3回本線分科会で10年後（R17年度）におけるパターン別の営業収支が示されましたが、市民に説明されるにあたり、市長の考えをお聞かせください。

《市長回答》

営業収支の部分だけ捉えると、どのパターンも大きくマイナスになると感じました。収支の面だけでなく、例えば並行区間を廃止にするパターンのうち、並行区間の営業運行を廃止し、列車が通過して稲荷町の方の点検にまわしていく場合でも、それなりに費用がかかります。また、並行区間を廃線にして線路等を撤去してしまう場合は、今の新魚津一字奈月間は残すため、改めて車両の点検施設や設備が必要になり、そのための費用も必要になります。説明会では、単に収支の部分だけではなく、それぞれのパターンでどういった影響が生じてくるのかを説明する必要があると考えております。一番極端な場合は、廃止をしてしまうパターンですが、既存の大規模構造物の撤去について莫大な経費がかかります。トータルのコストと、どのくらい先を見据えて地鉄を維持するのかを考えていく必要があると考えます。

○魚津水族館の建て替え等について

《記者からの質問》

魚津水族館は老朽化もあり、建て替え等、今後についてお聞かせください。

《市長回答》

老朽化に伴う施設のあり方について、建て替えを含めて考えていく必要があるのはもちろんですが、水族館の入館者を増やしていくことも必要と考えております。いろんなアイデアや取組によって、入館者数を増やすことができるということを示していくことが大事です。食や新たな魅力との掛け合わせで水族館を大人にも訪れてもらうための取組を実施してまいります。同時に、令和7年度には、水族館アドバイザーの方に今の水族館の課題、新しくしていくときの手法やスケジュール等を含めて、検討素案を取りまとめてもらいました。その中で、民間が独自でやるのであれば、割と短い期間、4年とかの期間で実施できるだろうけど、行政が実施する場合には、合意形成であったり、予算の問題であったり、民間の方と連携をしていく手法、例えばPFI等、の検討であったりと、時間がかかるとのことです。専門家と地元の経済界や漁協等、関係機関で構成する議論して合意形成していくような場づくりが必要だというご指摘をいただいております。今後は、アドバイザーの検討素案をベースにして、どのような進め方をしていくのかを考えてまいります。